

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回社会教育委員会議
開催日時	令和6年7月18日(木)午後2時00分から午後4時05分まで
開催場所	戸田市役所 3階 教育委員室
委員長等氏名	社会教育委員会議 委員長 宮地孝宜
出席者氏名 (委員)	宮地孝宜、佐藤勝巳、板橋哲、渡部淳子、稲垣茂、須田真司、加藤ちあき、熊木保衛、山本学、中村英美
欠席者氏名 (委員)	阿部央憲、高松麗子
事務局	鎌田課長、高屋課長、富田主幹、木内主任、徳永主事、向後主事補
説明のため 出席した者	なし
議事等	<p>報告事項</p> <p>(1) 令和5年度市民大学講座の報告及び令和6年度事業計画について</p> <p>(2) 戸田市民大学の修了者特典について</p> <p>(3) 生涯学習情報発信の強化について</p> <p>議事</p> <p>(1) 第5次戸田市生涯学習推進計画進捗状況について</p> <p>(2) 次期生涯学習推進計画の策定方針(案)及び策定スケジュールについて</p> <p>(3) 令和6年度社会教育関係団体への補助金交付について</p> <p>意見交換</p> <p>(1) 令和7年度戸田市民大学講座の内容について</p> <p>(2) 「家庭教育講演会」の開催方法等について</p>
会議結果	別紙のとおり
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第及び資料一式 ・ 次第6 意見交換 ・ 戸田市民大学カリキュラム予定表 ・ 戸田市生涯学習情報誌
議事録確定	<p>令和6年7月31日</p> <p>社会教育委員会議 委員長 宮地 孝宜</p>

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	次第 1 開会 次第 2 自己紹介 次第 3 委員長あいさつ
事務局	次第 4 これより報告事項及び議事に入る。 議事の進行については、「戸田市社会教育委員の会議に関する規則」第 3 条第 3 項に基づき、委員長に願います。 議事に入る前に傍聴人はいない旨報告。
委員長	資料に基づき報告 1 について、事務局から説明願いたい。
事務局	報告 1 令和 5 年度市民大学講座の報告及び令和 6 年度事業計画について 概要：令和 5 年度の取組の成果について説明し、令和 6 年度の講座計画について説明。
委員長	報告 1 について、意見・質問等あるか。
委員長	令和 5 年度の市民企画講座の申込状況について伺う。
事務局	令和 5 年度は 18 企画応募があった。教育委員会事務局内で審査し、その中から得点の高い講座 2 講座を実施した。採用されなかった講座は公民館での講座に一部反映をしたが全て実施できないため、提案いただいた講座企画の活用について今後どうするかが課題だ。
委員長	18 企画もの応募は素晴らしいと感じる。企画の募集にあたっては、事前ガイダンス等を行っているか。
事務局	現在のところ行っていない。
委員長	企画の応募者に向けて、講座づくりに際しての情報提供やアドバイス等ができればよいと考える。選定した講座を 2 講座とした理由は。

事務局	他の講座とのスケジュールを考慮し、当初から2企画程度を実施することとして募集をした。企画者には、自分の活動のPR等の「自分の講座」としてではなく、市民大学の趣旨を理解したうえでの「市の講座」として実施をしていただくよう、講座実施まで企画者と綿密な打合せを行っている。
委員長	市民企画講座は素晴らしい取組であるので、今後、より活性化して行ってほしい。令和5年度市民大学講座の実績は、令和4年度よりも実施回数が減ってはいるが、参加者数が増加している。コロナウイルス感染症が下火になった影響か。
事務局	新型コロナウイルス感染症禍において、自分と向き合う時間が増えたことにより、学習や講座等への関心が高まったようだ。また、市民ニーズの分析や、毎年同じ講師で実施していた講座を、地域の人材を講師に変えて実施することや、講座の名称を工夫するなどした。公民館講座でオンデマンド講座を始め、忙しい人でも自宅で講座に参加できるようにした影響も大きいと考える。
委員長	講座数自体は減ったが、参加者数の伸びが見られた。他の講座の中でもオンデマンド講座を是非取入れて行ってほしい。
委員全員	その他質疑等なし。
委員長	報告2について事務局より説明願う。
事務局	報告2 戸田市民大学の修了者特典について 概要：現行の特典の課題及び令和7年度以降の特典案について説明。
委員長	報告2について、意見・質問等あるか。
副委員長	新規の修了者が少ないとのことであるが、令和5年度の修了者10人のうちの新規3人を除く7人は、何度も修了しているということか。何年位で修了できるか。

事務局	リピーターの方など、早い人だと毎年修了している。何度修了をしてもいいシステムになっている。
委員長	特典案の内容のとおり進めていくということか。
事務局	特典の見直しについては、数年前から社会教育委員会議において検討をいただいていた案件であるため、いただいたご意見を踏まえ、令和7年度から新しい特典(図書カードの配布、大学聴講補助制度の範囲拡大)をスタートさせたい。
委員長	図書カードは換金性が高いため、講座関連図書の購入を確認したら図書カードを配布するという方法も考えられるがどうか。事務が煩雑になるかと思われるが、図書を通じた学習に確実につなげられるのではないか。
事務局	図書カード配布は補助事業ではなく「記念品」の扱いにしたいと考えている。金額は千円程度を想定している。
委員	修了するには講座に45回参加が必要ということか。講座が定員に達し参加ができないことが多々ある。自身の経験だと、抽選申込の講座については一度も当選したことがない。講座の回数を増やすことはできないか。
事務局	1講座につき1単位を付与している。複数回にわたる連続講座については、1回の参加につき1単位付与している。人気のある講座は、先着順での受付が基本だが、一部で抽選にしている場合もある。人気の講座は、実施回数を増やすよう努めている。
委員長	抽選になる人気講座に関しては、市民としては複数回開催してほしいところだろう。予算の兼ね合いもあるだろうが、学習の機会の提供という意味で回数を増やすことを検討していただきたい。また、一度特典を追加すると、廃止することが難しいので慎重に進めていくとよいだろう。
委員全員	その他質疑等なし。
委員長	報告3について事務局より説明願う。

事務局	<p>報告3 生涯学習情報発信の強化について</p> <p>概要：生涯学習情報冊子の統合や、講座を紹介する1分間動画の作成などの取組を報告（動画視聴）</p>
委員長	<p>報告3について、意見・質問等あるか。</p>
委員長	<p>人材バンクの情報について、多くの自治体が講師の氏名を掲載していないようだ。「印」は掲載を希望していない人ということか。利用に関して市民の問合せはどのくらいあるか。</p>
事務局	<p>誌面の掲載には講師から許可を取っている。従来は住所や電話番号も掲載していたが、令和6年度から氏名のみ掲載に運用を変えた。依頼者には事務局が仲介して連絡先等を伝えている。最近では、住民向けの講座の開催を検討しているというマンション管理組合からの問い合わせを受け、情報提供した。</p>
委員長	<p>一般的に生涯学習支援の方策の1つとして、学習情報提供、学習相談が挙げられる。電話相談等の学習相談について市民には発信をしているか。</p>
事務局	<p>社会教育指導員や社会教育主事が少ないなど、職員体制等の理由から現在は全面的にできてないが、市民からの問い合わせには随時対応している。</p>
委員	<p>人材バンクの講師の登録手続方法について伺いたい。</p>
事務局	<p>ホームページや窓口に登録用紙を設置している。申請書の受領後、審査を経て正式に登録している。登録期限は3年間としているが、登録申請は随時受け付けている。登録継続や情報誌への掲載は、毎年度講師本人に意向を確認している。</p>
委員長	<p>生涯学習情報誌の内容はホームページで閲覧はできるか。</p>
事務局	<p>冊子の内容をPDF化し、全て見るができるようにしている。</p>

委員長	市民の学びの支援につながるため、情報を1つに集約することは良い取組である。
委員	市の公式LINEで講座の情報を発信しているとあるが、LINEへの登録はどのようにすればよいか。
事務局	市ホームページで案内している。市の公式LINEでは、生涯学習の情報だけではなく防災やゴミ出しルールなど全市的な市の情報を発信している。自身で好きなジャンルを選択・登録することで生涯学習に関する情報が届くようになる。
委員全員	その他質疑等なし。
委員長	議題1について事務局より説明願う。
事務局	議題1 第5次戸田市生涯学習推進計画進捗状況について 概要：令和5年度における計画の達成状況・評価について説明
委員長	議題1について、意見・質問等あるか。
副委員長	生涯学習課以外の課が実施している生涯学習事業はどのくらいあるか把握しているか。
事務局	市民大学情報誌に掲載のある講座は、市民大学講座として実施している。その他の講座、講演会、イベント等の生涯学習関連事業は、戸田市生涯学習情報誌に掲載している。それらのものは把握している。
副委員長	生涯学習の推進は生涯学習課が中心となって実施するが、本来は全市を挙げて推進していくという姿勢が基本であるのではないか。はじめに生涯学習推進計画を策定した際、各基本方針の内容を、市を挙げて取り組むために、全課に計画の方針に沿った講座を検討・実施するよう呼びかけを行っていた。現在は全庁的な取組みになっているのだろうか。
事務局	全庁的に生涯学習を推進していくために、庁内策定委員会を発足させて計

	<p>画の策定にあたった経緯がある。各基本方針に沿った事業の実施を各課に依頼し、進捗を管理しているが、現在は事業の実施は全ての課にまでは至っていない。</p>
副委員長	<p>現代的課題は、環境、土木など全課が抱えている課題ではないか。それらを市民と学びながら、市のまちづくりを進めていくことが生涯学習の基本理念にあるのではないか。そうしたことを今後の計画に反映させてほしい。</p>
委員長	<p>今回の進捗は、行政の自己評価では9割を達成とし、これ自体は素晴らしい結果だ。一方で、未達成の課に関しては、達成に向けて生涯学習課や社会教育の専門職等が助言・指導をしてほしい。評価指標に関しては、多くの自治体でも「参加者数」としているが、参加者が少なくても大きい学習成果が得られたという事例もみられる。今後は評価のあり方についても検討を進めていただきたい。</p>
委員全員	<p>その他質疑等なし。</p>
委員長	<p>議題1は承認ということで良いか。</p>
委員全員	<p>異議なし。</p>
委員長	<p>議題2について事務局より説明願う。</p>
事務局	<p>議題2 次期生涯学習推進計画の策定方針（案）及びスケジュールについて 概要：次期計画の策定にあたり、戸田市市民意識調査の結果を踏まえた市の現状について説明し、次期計画を「戸田市生涯学習ビジョン（仮称）」としたい旨説明。</p>
委員長	<p>議題2について、意見・質問等あるか。</p>
副委員長	<p>「ビジョン」と「計画」とでは性格が異なるが、自身は「ビジョン」とすることには疑問を感じている。生涯学習計画を生涯学習ビジョンにとって替えるということか。</p>

事務局	<p>現行の生涯学習推進計画の上位計画である戸田市総合振興計画や戸田市教育振興計画において、社会教育に関する市の施策をまとめていく。次期生涯学習ビジョンでは、学習者である市民の目線から、今後の生涯学習振興に向けた在り方等についてまとめるイメージである。</p>
委員長	<p>教育と学習は異なる次元のものであるため、生涯学習ビジョンは教育振興計画の下位計画ではなく、むしろその上にあるものとして捉えることもできる。生涯学習ビジョンの下位にあたるのが、公民館ビジョン、博物館ビジョンなどではないだろうか。ここでいう「ビジョン」の定義を明確にする必要はあるが、教育と学習は視点が異なるため、教育振興計画の下位計画としてしまうと語弊が生じてしまうため、位置づけを考えていく必要がある。</p> <p>また、生涯学習のビジョンを示すということであるため、教育に関する諸計画それぞれにビジョンの内容を反映される必要があるだろう。そのため、位置づけとしては、諸計画に影響を与える生涯学習の「支援ビジョン」あるいは「振興ビジョン」にあたるのではないか。教育振興計画の策定の際にも、生涯学習ビジョンの考え方を取り入れ、相互に連携していく形が望ましい。行政の立場では、教育振興計画が上位計画とされるのであろうが、生涯学習ビジョンと並列させることなどが望ましい。</p>
副委員長	<p>生涯学習と社会教育は別ものであることを頭に入れておかないと整理がつかなくなる。社会教育と生涯学習の振興に上位や下位などはなく、並列にあって、生涯学習の大きな枠組みの中に社会教育も学校教育もあることを念頭においておくことが必要だ。市民が主体となって行うのが生涯学習であり、教育を行う主体が学校教育、社会教育とするなどの役割を明確に示しておかないと、社会教育のビジョンなのか、生涯学習振興のためのビジョンなのかよくわからないものになってしまうことを危惧する。また、ビジョンとは理想とする将来像を示すものである。将来像へ向かうための行動計画が今後必要となってくるだろう。単純に推進計画をビジョンにおきかえることには無理があると思う。</p>
委員長	<p>仮に生涯学習ビジョンを作ったとして、単年度ごとの計画を毎年作っていくのか。</p>

事務局	<p>具体的な取組を示したアクションプラン的なものは単年度ごとに作成し進捗管理していきたいと考えている。全庁的に生涯学習の推進をしていく過程で、変化の激しい社会を捉えていかなければならないことや、市の重点施策も変化していくため、はじめから5年間の取組を決めてしまうことに課題を感じているところである。中・長期的な大きな方向性を示したうえで、各年度のはじめに単年度の成果目標を踏まえた事業計画を決めていきたい。生涯学習ビジョンの達成に向けては進め方が大切であるため、御指摘いただいた視点は大切にしていきたい。また、市の教育全体の推進においては、学校教育が目立つ存在である。個人の学びや生きがいづくりを進め、人づくり、地域づくりにつなげていくには、学校教育だけではなく、社会教育と一体で実施していくことが重要だ。その為、教育振興計画策定にあたっては、プロジェクトチームを設けるなど、ワンチームで市全体の学びの向上に向けて検討していくことを想定している。生涯学習ビジョンの策定は、新たな取組であるため、課題が多くあると思うが、皆様のお力添えをいただきながら進めていきたい。</p>
委員	<p>数ページにまとめ、ビジュアル化するという方針については大賛成である。数十ページにも及ぶものを事細かく見る人は少なく、伝わりやすいだろう。内容については、委員・副委員長のいうとおり整合性をはかり、アクションプランを年度毎に示しながら進めていってほしい。</p>
委員長	<p>生涯学習の観点からいうと学校教育、家庭教育、社会教育それぞれの教育の領域があるが、学習というのはあらゆるところで行われて、あるいは同時併行的にも行われる。特に子どもの育ちを考えると、学校教育だけでは十分に支えられないことが沢山あり、社会教育との連携が必要になる。そのうえで、生涯学習ビジョンには学校教育との関係も示しておくことも必要だと考えられる。小・中学校、高等学校のそれぞれの教育課程で地域との連携が必要となってくる。学校教育だけでは十分に子どもの育ちを支えられないと思うがいかがか。</p>
委員	<p>学校教育単独になっているところを、ゆくゆくは生涯学習と一体的に進めていくことになるだろう。学校教育を、「地域とともに」、「地域に開かれた」という形で進めているということを市民に知ってもらうためにも、市</p>

委員	<p>民の視点のビジョンという形で示していくことは大切だ。広く知ってもらうためには分かりやすさも大切だ。</p> <p>資料(2)にあるが、「生涯学習」という言葉になじみがないことや、「自分が生涯学習を行っている」という実感が無いのはまさに現在の自分にあてはまる。学ぶことも好きだし興味はあるが、「自分が生涯学習を行っている」と思いながら行う人は少ないのではないかと。「生涯学習やりませんか」、「生涯学習やっているね」と言われても、自分自身のこととして結びつかない。「生涯学習」をわかりやすく共有するということには共感はあるが、すでに生涯学習という言葉になじみのある人にとっては、違う言葉で表現されると違和感があり、食い違いが生じてしまうのではないかと危惧する。現在の社会にも、様々な言葉の言い換えや変化があり、戸惑うこともある。</p>
委員長	<p>生涯学習とは学びの連続性・総合性、学びの総体である。それぞれが行っている学びのことを生涯学習と捉えて良いと思うが、市民には分かりやすく示していく必要はあるだろう。</p> <p>市民意識調査「生涯学習を行っていない」が63.3%以上というのは、国の調査結果に比べ高い状況だ。質問旨を確認していないが、実生活で自分が「生涯学習をしている」と意識して学習をしている人は少ないだろう。事務局側ではアンケート結果をマイナスに捉えているが、読書や勉強など何らかの学びをしている人は多く、調査自体に問題がある可能性があるため、今後は設問を慎重に作っていく必要もあるだろう。また、市民目線のビジョンということであれば、その中で学習について共通認識を示していく必要はあるように感じる。ところで、ビジョンの中に「評価」の記載があるが、5年間の評価を行うか。</p>
事務局	<p>まだ案の段階ではあるが、単年度の評価とは別に最終的な評価を行うことを想定している。</p>
委員長	<p>近隣の市において、「生涯学習振興計画」をやめて「生涯学習ビジョン」に変えられたので調べると良い。生涯学習ビジョンにおいては、策定のプロセスが重要になってくる。全庁的・全市的な策定委員会を実施との説明があったが、もともと生涯学習がうたわれるようになった背景に、教育(教</p>

	<p>育委員会)が関わる部門だけが学習の必要を訴え提供するのではなく、あらゆる部門が学習機会を創出しているという、広く各部門の学びを総括することで、市民の学習を後押ししていくというところがある。生涯学習ビジョンは、学習機会の提供だけではなく、学習情報の提供、学習相談、学習評価などをトータルに備えたものにする必要があるため、今後具体的なあり方を含め検討して行ってほしい。位置づけイメージ図については、教育振興計画の下位計画では決してないため、生涯学習ビジョンの置き方について工夫してほしい。また、生涯学習ビジョン、教育振興計画それぞれの計画の策定過程において情報共有・情報交換をしながら進めてほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>議題2(4)資料スケジュール案については、令和7年度に委員任期の切り替えがあることを御承知おきいただきたい。委員長提案として、令和6年度第2回会議(2月)までの間に一度、社会教育委員会議とは別に任意参加によるワークショップ等の意見交換をする場を設けたい。様々な所属から委員が選出されており、社会教育委員は独立して委嘱されている市の非常勤職員という立場であることから、委員それぞれの立場から社会教育に対して様々な意見をいただきたいと思うがいかがか。なお、今年度の社会教育委員会議は年2回となっているため任意となるが、よりよいビジョン策定に向けて実施したいと考える。いわゆる「行動する社会教育委員」を、戸田市でも具現化していきたい。生涯学習の自発性ということも踏まえ行いたい、了承いただけるか。</p>
<p>委員全員</p>	<p>各自日程が合えば参加する方向で了承。</p>
<p>委員長</p>	<p>開催時期は10月~11月の秋頃ということで、実施に向けて相談しながら進めていきたい。委員の皆様には事前に文書で意見を伺うなどの機会を設けることになるが、御協力いただきたい。</p>
<p>委員全員</p>	<p>意義なし。</p>
<p>委員長</p>	<p>議題2について承認するという事によろしいか。</p>
<p>委員全員</p>	<p>意義なし。</p>

委員長	次第6 意見交換について事務局より説明願う。
事務局	意見交換(1)令和7年度戸田市民大学講座の内容について (2)「家庭教育講演会」の開催方法等について 説明
委員長	(1)令和7年度戸田市民大学講座の内容について1人ずつ御意見をお聞かせ願う。
委員	話題になっているAI関係を取り上げてみてはどうか。実生活への影響について知るヒントが得られるとよいのではないか。
委員	自身が所属する施設では、子ども向けの習字講座が人気である。親が興味を持ち、子どもに受けさせるために申込をされることが多い。大人向けの習字講座の問い合わせも多く、美しい字に興味がある人が多いようだ。健康増進の視点で、腸活など高齢者は興味があるのではないか。人権に関する分野として、ハラスメントや男女共同参画、パワーハラスメント、モラルハラスメントなど、被害者にも加害者にもならないための講座の実施は数が少ない。デリケートな課題だが、知る機会を設けるのは大切だと思う。
委員	令和6年度に実施する「金融リテラシー」のタイトルは固い印象だ。「人生100年時代のお金の話し」などにしてみてもどうか。
委員	全市的に行う講座なので、講座での学びを活動など次のステップにつなげられるような仕組みを設けてみてはどうか。座学だけではなく、参加者同士で共有する場面を設けるなども大切だと思う。
委員	オンデマンド、会場含め1時間から1時間半の時間をつくるのが難しい人、飽きてしまう人も居るのではないか。思い切って30分の講座を実施してみてはどうか。
委員	最近の子どもはスポーツを行わなくなったようだ。市内のチームと協働してスポーツの普及につなげてみてはどうか。
委員	広い世代に参加してもらうためには、オンデマンドの実施は必須だろう。

	<p>短時間の講座を複数回セットという形で実施してはどうか。少しずつなら参加しようと思う若い世代もいるのではないか。戸田市の良いところを発信する意味でも「とだ学」で戸田市のスポットを紹介するのも面白いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>「現代課題講座」を充実していくのが良いと思う。金融、NISA、親の介護や墓じまいなど、今後を見据えたテーマはいかがか。「障害者差別解消法」など人権教育に関わる内容などを事業者の人にもアナウンスできる・勉強できるような講座もどうか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>広く浅くになりがちなので、学びのきっかけづくりをしながら、その学びをその後の活動や学習へどうつなげていけばよいかなどの情報提供を行うのはどうか。学びのきっかけづくりから自分の学びへの橋渡し、学びのきっかけを次の活動に活かす方法について学べる機会を提供してはどうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>様々な意見が出たため、令和7年度の計画づくりにおいて参酌していただきたい。講座計画をみたところ、いわゆる健常者の参加を前提としているように見受けられる。実際は様々な立場の方が参加できるようにしているのであるが、合理的配慮等も検討しながら工夫をしていってほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、(2)「家庭教育」講演会の開催方法等について、1人ずつ御意見をお聞かせ願う。</p>
<p>委員</p>	<p>過去の実績を見ると、オンデマンドの参加が多いようなので、現状どおりでひとまず良い。</p>
<p>委員</p>	<p>以前実施した講座で性教育について取り上げた際、大変好評であった。性教育に関する講演会に関心がある方はいるのではないか。性教育については学校の授業でのスピードが速くてついていけない、家庭での伝え方が難しい等の声を聞く。親が子へ伝える際に戸惑うテーマでもあるため、親子の関わりの中でうまく伝えられるようなサポートできるような講座を実施してはどうか。また、運営方法として保護者向けの講演会と同じ時間帯に、託児の意味も込めて子ども向けの講座を実施してみるのはいかがか。</p>

委員長	保護者のニーズを把握していくことも重要である。
委員	学校からの意見にあるよう、親子で参加できる講座の実施はどうか。
委員	全体で1回の実施が難しい場合、全体で実施した講座のオンデマンドを各学校単位で行事の際などに観るようにするのはどうか。また親同士の共有する場も一緒に設けると良いのでは。
委員	性教育については、親から子へ伝えづらいという声を保護者から聞く。同じ時間帯に別会場で親、子ども向けの講座をそれぞれ実施するのはニーズがあるだろう。参考資料にある「生きてるだけで100点満点」の講座は興味深い。自分の子どもに障害があること、発達障害であることなどを周囲に言えない親も多いそうだ。ポジティブな気持ちになる内容のものが良い。また、『みんなの学校』や『窓ぎわのトットちゃん』などをみんなで見たいと言っている保護者もいる。みんなで見守ること、多様性があったよいことなどを、親子で学べる機会があるとよい。
委員	共働きの親も多いため、町会など地域を巻き込んではどうか。
委員	中学校では、6年生の親を対象に入学説明会を実施している。以前は、対面で実施し、その際に市からの家庭教育アドバイザーの派遣等を受け、親が学ぶ機会があった。現在は、対面での説明会を行っていない学校が多く、資料配布や動画視聴があれば良いという意見もあり、開催方法は見直ししていく必要がある。講師の話しの導入10分間の動画の二次元コードをつけて、続きが見たい人は会場に誘導するなどしてはどうか。チラシのみでの集客は難しいと思う。
委員	講演会という実施形式を再検討してはどうか。過去に学校で、講演会を参加型のグループワークに変えて実施したら、好評であった。参加型にすれば、他の委員から出た意見のような様々な工夫がしやすくなるのではないか。「家庭教育講演会」という名称も変えてみてはどうか。今後は聞くだけの講座ではなく、参加型の取入れの検討が大切だと思う。

副委員長	参加方式、家庭教育講演会という名称、オンデマンド中心で、時間を分割して実施するなどを検討していかなければならないと思った。理想的な子育てを語るのではなく、How To モノの内容であるとか、いじめや不登校等の問題を抱えている親も参考になるようなものにしてはどうか。
委員長	短い動画の作成は良いと思う。講演会は、参加型も検討してみてもどうか。オンラインは知識を得る点、対面は交流をする点でそれぞれの良さがある。バランスを考慮しながら検討してほしい。
委員全員	その他意見等なし。
委員長	本日の全ての議事が終了したので、進行を事務局へお返しする。
事務局	<p>次第7 閉会</p> <p>次回の会議は2月を予定している。また、10～11月頃に生涯学習ビジョンの策定に向けた任意参加型ワークショップの開催を検討する。</p> <p>以上で令和6年度第1回戸田市社会教育委員会議を終了する。</p> <p>閉会 / 午後4時05分</p>